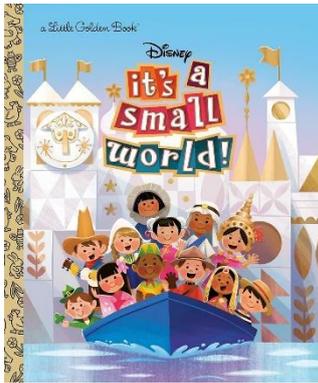


## 「小さな世界」

学校長 笠原 究

先日、音楽室で子供たちが元気に「小さな世界」を歌っているのを聴きました。心躍る明るい



曲調のこの歌は、どなたも一度は聞いたことがあるでしょう。原曲はよく知られているように、ディズニーランドのアトラクション用に作成された *It's a Small World* です。作曲者はロバートとリチャードのシャーマン兄弟で、兄のロバートさんは 2012 年に、先日5月25日には弟のリチャードさんも亡くなられたそうです。

子供の頃、私は、世界は広いのになぜ「小さな世界」と言うのか不思議に思っていました。しかし歌詞をよく見ればその謎は解けます。まずは原曲 1 番の歌詞を見てみましょう。

It's a world of laughter,  
a world of tears.  
It's a world of hopes,  
a world of fears.

笑いの世界  
涙の世界  
希望の世界  
恐れの世界

There's so much that we share  
That it's time we're aware  
It's a small world after all.

共有してることはたくさんある  
そろそろ気付く時じゃないか  
結局は小さな世界だって

It's a small world after all.  
It's a small world after all.  
It's a small world after all.  
It's a small small world.

結局は小さな世界  
結局は小さな世界  
結局は小さな世界  
小さな、小さな世界

これに付けられた日本語訳で、今もよく歌われているのが若谷和子(わかやかずこ)さんによる「小さな世界」です(実際は 6 番までありますが、1 番のみ掲載します)。

世界中 どこだって  
笑いあり 涙あり  
みんな それぞれ  
助け合う 小さな世界  
世界はせまい 世界は同じ

## 世界はまるい ただひとつ

実に見事に訳されていて、原曲のリズムにもよく合う歌詞です。また、原曲は「小さな世界」を繰り返しているのに対し、日本語訳は表現を変えながら根底にあるメッセージをうまく伝えられていると思います。世界のどこで暮らそうと、人間が笑ったり、悲しんだり、怒ったり、怯えたりという本質的な感情に違いはないということです。もちろん文化や生活習慣の違い、物事も見方の違いなど差はありますが、楽しい時に笑い、悲しい時に涙を流し、困っている時には助け合うという人間の有り様は、どの国の人々にも共通するものです。そういう意味で私たちは「小さな世界」に住んでおり、国境を越えて分かり合うことができるのだというメッセージをこの曲は伝えてくれます。学園歌の2番にある「世界の友と手をつなぎ、平和に尽くす人となれ」という歌詞とも重なるメッセージですね。

先日まで附属小は、ラオスから来た先生方をお迎えしていました。先生方は、主に算数の授業を参観されていましたが、休み時間に子供と交流したり、一緒に給食を食べたりもしていました。言葉は通じなくても、子供たちは身振り手振りや絵などを使い、ラオスの方々との会話を楽しんでいました。「小さな世界」を体現しているなあ、と頼もしく思ったものです。この子たちならきっと将来、世界中の人々と協力し、平和に尽くす人になってくれることでしょう。

